



お買い物バスのコースは、9コース。
宮古市では、4コースで運行。



滞在時間は長すぎず、短すぎずちょうどよい。マリンコープ DORA では70分間、ベルフ西町では50分間。店舗の規模に合わせている。

車がないから助かります ～無料お買い物バスの運行開始

7月9日、いわて生協は沿岸被災地の住民と宮古市内の2店舗（マリンコープDORAとベルフ西町）を結ぶ「無料お買い物バス」の運行をスタートしました。

さまざまな配慮でコース設定

いわて生協は6月18日から移動店舗「にこちゃん号」（詳細は、本誌18号参照）を運行していますが、それだけでは対応できない仮設住宅が数多くあり、無料で乗降できる「無料お買い物バス」を7月9日からスタートしました。

コースは全部で9つ設定され、これにより宮古市・山田町の仮設住宅64カ所（2,078世帯）をカバーすることが可能になりました。さらに、仮設住宅だけでなく、その周辺にお住まいの被災地住民も利用できるようにコースを設定し、停留所を設けて事前告知を行ないました。

いわて生協・常務理事の阿部慎二さんは、「仮設住宅にお住まいの方々と、その周辺でもともと暮らしていた方々



運行前、告知にも力を入れた。

との間で、ふれあう時間があまりないと聞いています。ならば、いわて生協が運行するバスで隣り合わせに座ったり、行き先の店舗で一緒に買い物をするような時間があると、コミュニケーションが深まるのではないかと考えました。また、『お買い物バス』を無秩序に走らせて復興途上にある店舗の経営を圧迫しないように、コース設定も考えました」と話していました。

無料で、ありがたいです

買い物を終えてバスに戻ってきた方々に話を聞くと、「車を持っていないから、本当に助かります」という好意的な意見ばかりでした。「山田町からはバスでも片道700～800円かか

ります。往復すると1,500～1,600円。個人の負担は大きいでしょうね」（阿部常務）。

「無料お買い物バス」の運行は、2013年3月末までを予定しています。4月以降の運行をどうするかは利用状況を見て判断するそうです。3月末までの運行に関する費用は日本生協連が全額負担しました。

阿部常務は、「東日本大震災以降、生協が持つ大きな力を実感しています。緊急支援はもちろんのこと、復興支援として『にこちゃん号』と『無料お買い物バス』を続けてスタートできたのは、全国の生協と職員、組合員さんの助けがあったからこそ。生協という組織は本当に心強いですね」と語っていました。

※ 移動店舗「にこちゃん号」と「無料お買い物バス」をそれぞれ1台ずつ運行していても、面積が広い岩手県では、被災地をカバーできません。そのため、いわて生協では、「にこちゃん号」を増やすことを検討しており、現在、そのための募金も始めています。詳細は、本誌最終ページ「支援募集情報 いわて生協」を参照。



移動店舗「にこちゃん号」。